

相眞の國洲滿

る語を



長總交外國洲滿
演講氏石介謝

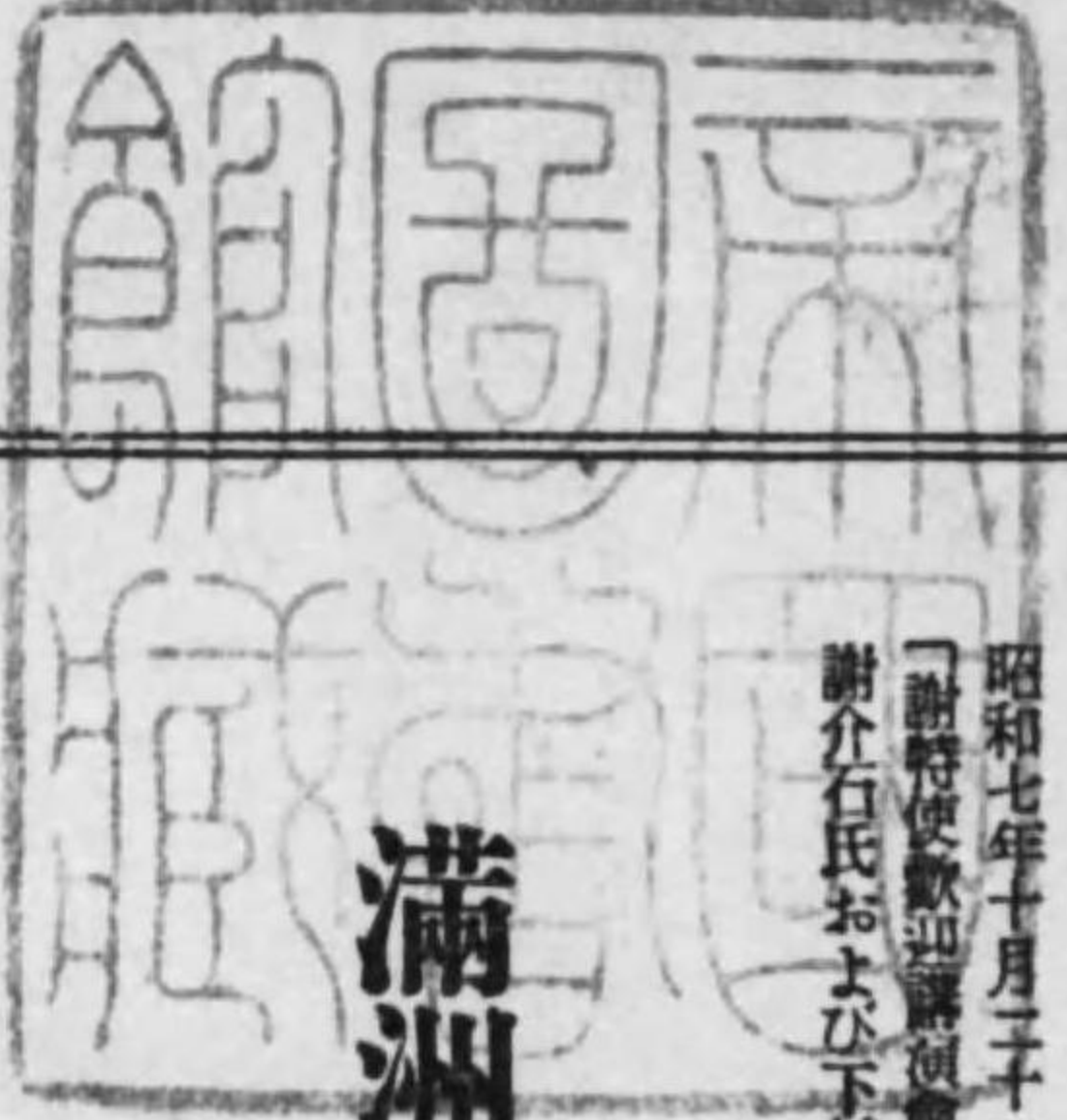
特 240

366

始



特240
366



昭和七年十月二十二日朝日講堂に開會の
「謝特使歓迎演習會」における滿洲國特使
謝介石氏および下村宏氏の講演速記全文

滿洲國の真相を語る

東京 朝日新聞社發行
大阪



目次

序にかへて……………下村 宏……一

滿洲國事情に就て……………謝 介 石……三

滿洲問題の認識……………下村 宏……一三

序にかへて

下 村 宏

申上げるまでもなく主賓は今回滿洲國を代表して我國においでになりました。吾々朝野擧つて歓迎の意を表してをります。微衷は主賓におかれても十分にお酌み取りになつてをることと思ひます。謝介石總長は御案内の通り台灣新竹州から出身されました。又東京で明治大學にも入られ、その後滿洲國人の間に奔走されてをつて、今回新滿洲國の外交總長に就任せられたのであります。私個人といたしましても、私は台灣に足かけ七年をりました。自分としては台灣は第二の故郷であります。二重の意味で私は、本日の主賓を迎へたことに對して喜びに堪へないのであります。で、私が特に申上げるまでもなく既に總長がステートメントとして共存共榮の實を擧げるといふことを宣明されてをります。私はこゝに多言は申しませぬが、どうか皆様歓迎の誠意と同時に、將來は先程申した通り吾々が眞に手を握り、眞にお互に相融和精進することによりまして、本日の主賓のこゝに臨まれたることに對しては吾々の誠意を表したいと思ひます。

滿洲國事情に就て

滿洲國外交總長

謝

介

石

今日皆様とこの朝日新聞の講堂で一堂に會見することの出来たことは私の深く光榮とするところであります。

この度私は答禮專使として來朝いたしましたして、東京市民が實に誠心誠意をもつて私を歓迎下さいましたことを私は非常に感謝してをります。

今日は朝日新聞社から私に何か講演してくれといはれまして皆様には何か面白いことでも御紹介すれば非常に結構と思つてをります。無學の私のことで、そんな講演も出来ませぬ。だから私はわが滿洲國の事情をこゝに御紹介しやうと思つてをります。わが滿洲國は皆様と相提携してやつて行かなければならぬから、滿洲國の事情を是非皆様に知つて頂くことが必要と思ひますので、私はこれから現在の滿洲國のやつてゐることを報告旁々お話しやうと思ひます。滿洲國の現

在と申しましても、範圍が廣うございますから部門を分けて、先づ第一に外交のことから申します。その次に財政のこと。その次に内政、特に馬賊のことを申上げます。

外交問題

滿洲國の外交は御承知の通り建國早々外交總長の名義で發表した通りに、門戸開放、國際信義を守つて門戸開放主義をとるといふのが滿洲國の外交方針であります。私は特にこの間のリットン卿が滿洲國に参りましたときの状況を皆様に御紹介したいと思ひます。

リットン卿の調査團一行は歐洲を出發するときに、つまりこの滿洲の事件に對して吾々が行つて何とか片付けやう、うまく解決しやうといふ意氣込みで出發して來た。それから支那の方でも、蔣介石や張學良は非常に聯盟に頼つて、調査員がやつて來たならば日本のやつてくることはすぐさま片付けてくれる。日本のやつてくる滿洲問題や上海問題は、ナニもうすぐさま解決出来る調査團一行の言ふ通りになるに違ひないといふ考へをもつて、又一方的に非常な宣傳をやつてをりました。いかにも聯盟といふものは日本國の上に立つてをて日本が聯盟の裁判によつてどうにでもなるといふやうに宣傳してをりました。だから支那一般の民衆は非常に聯盟の來ることを

期待してをった。

わが滿洲國人でもびく／＼してゐた。調査團が來たならば聯盟のやり方によつて滿洲國がどうなるかといふことを非常に心配してゐる。それで聯盟調査團員が滿洲國に入つて來るときであつた。國際上の禮儀として私の方から一つ聯盟の方へ電報をうつた。君達が來るといふやうなことになつてゐるが、日程その他いろ／＼打合せもあるから、君の方から日程その他いろ／＼のことを一つ私の方に知らしてもらひたい、その上でやつて來いといふ電報を打つてやつた。

ところがこつちが電報を出したきりで向ふからは何等返事が來ない。知らん顔をしてゐる。一日、二日、三日、四日、いくら待つてをても返事が來ない。こいつは怪しからぬ、聯盟の方はへんな考へを持つてゐると思つた。そして聯盟にかういふやうな風にやられたならば、滿洲國はもちろん、この東洋における關係は非常に重大なものであるからして、何とか聯盟に對する決意を示さなければならぬと思ひました。然も調査團には、南京政府の顧維鈞が一緒にくつついて來てをります。それで私は聯盟が實際かういふ無禮なやり方ではその入京を拒絶するより仕方がないと思つた。然しながら如何せん日本との關係もある。日本は聯盟が來ることを認めてゐる。滿洲國には御承知の通り日本の租借地、鐵道付屬地があります。だからこつちがいくら拒絶して

も、日本とは不可分の関係がある。片方は歓迎、片方は拒絶ではおかしいものになります。それで顧維鈞に對しては斷乎たる手段を取らなければならぬといふことで、顧維鈞の入國拒絶電報を出した。そこでこれが非常に問題となつて、一時各國の視聽を集めました。ところがそれもつちが電報を出したきりで、南京政府ではそれを突返して來た。受取らぬ。それから聯盟は電報は受取つたが、これをどういふ風に返事していゝか譯がわからない。北平でいろ／＼評定した。それがために滿洲へ來る豫定は一週間も變更されました。

初めは傍若無人の境に入るやうな意氣込みであつたのが、あの電報をやつたら向うは喫驚して一週間ばかり日程を變更しました。そしていろ／＼苦心した結果、日本に頼んで調停してもらふとかいろ／＼聯盟の方では手を盡した。然しこつちは頑として肯かぬ。決して許さぬ。さういふわけで、とう／＼私の方の主張は十分の八、九まで目的を達しました。私がこゝに顧維鈞拒絶について斷乎たる手段を見せてやつたのは、聯盟の無禮のため、表面にはさうであるけれども、實際私の衷心から申しますと、元來支那の人は歐米人を非常に崇拜する。アメリカとかイギリスとか、兎に角歐米人を非常に崇拜する。さうして同じ東洋人種、善隣の日本人を非常に輕蔑する。これは事實さうなつてをる。

さうして聯盟調査團が來る時には、蔣介石や張學良一派は非常に宣傳する。日本は非常に聯盟を怖がつてゐる。調査團が來たら日本はすぐへこたれると宣傳する、さうするとこの宣傳が利いて、國民は日本がへこたれたら滿洲國はどうなるだらうと心配する。だからどうしてもこの國民の頭をため直さなければいかぬと思つた。それで顧維鈞の入國を拒絶するといふことは、一方からいへば外交關係であるが、一方内政關係からであつたのであります。わが滿洲國人をして現在の東洋における關係は日滿兩國だけ手を握つてやればそれでいゝ、何も外國の力を借りなくともいゝ、何も日本は外國を怖がつてゐない。顧維鈞の入國がいかぬといつたら向うが困るだらう。それ等のことを見せてやるため、外交關係よりも實際は内政關係が寧ろ多かつたのである。この内政關係は、それは私の持つてゐる日滿兩國の關係を深く示すために、滿洲人でも、また支那人でも、兎に角外國人の奸計に陥らないやうに誠心誠意兩國提携すれば、それで足りるといふことを知らせたい、それでかういふ風にやりました。口だけで多く言つても分らない、何か見せてやらなければならぬ。この顧維鈞問題は非常にいゝ機會で、顧維鈞は吾々の犠牲物になつたのであります、幸ひ皆様の御同情にもよりまして、非常に圓滿に吾々の主張が通つて行つた。そこで顧維鈞はわが滿洲國に入らぬといふ條件で、付屬地のホテルにすつと引込んでゐました。

ところが今度はリットン卿が吾々のところへ来ない、その事情についてはいろいろ話がありますが、それはこゝで一々報告は出来ませぬから簡単に言ひますが、第一顧維鈞と私と會つたときの挨拶に、私はかういふことを話した。——先づ先生がさきに電報の返事をしてないことを謝まつて来た。それはいゝが僕の方は君達の來ることを非常に歓迎しやうと思つて待つてゐた。然し歓迎といふことは君、よくその意味を聞かぬといかぬ。あなた方を歓迎するその意味は、わが満洲國は建國勿々でまだいくらも日がたゝない、丁度君達みたやうな國家的代表人物が揃つて各國のものがわが満洲國にやつて来た、かういふやうな機會はなかく得られないことである。だから私の方に來てよく見て宣傳してもらひたい。その意味で私は皆さんの來ることを非常に希望する。何故ならば君達は國家的の人物だから、君達が満洲國を宣傳してくれたならば非常に満足する。それで僕は誠心誠意をもつて皆さんを歓迎する。この意味において君達は満洲國をよく見てもらひたい。

それから一つよく認識してもらはなければならぬことがある。即ち君達が歐洲から立つて來るときは満洲と現在の滿洲との區別をよく立てゝもらはぬと困る。だから皆さんがもしも歐洲から立つて來るときはやうな滿洲を見ると思つたならば拒絶する、歓迎どころではない。さうでなく

この新國家の滿洲國を見學の意味で見てくれるならば僕は歓迎する、この意味でよく見てもらひたい。何故ならばあなた方の立つときの滿洲は、今日の事情において君達の調査すべき目的物は既に消滅してゐる、その滿洲はもうないのだ——といふことで話しました。

そのときにリットン卿は別段何とも言はなかつた。これだけを皆様に御紹介するわけでありませぬ。それから前に話したやうに私は或る意味においてこの顧維鈞の入國拒絶について斷乎たる手段をとつた。ところがわが滿洲國の外交方針はいつまでもこの支那を拒絶するやうな方針ではないといふことを皆様御承知願ひたいと思ひます。

この滿洲國は今支那より斷絶し獨立國が出来ましたが、支那との間はやはり日本と同じやうに不可分の關係を持つてをります。不可分の關係を持つてをるからしていつまでも排斥するといふことは出来ませぬ。今では私の方は衷心支那のためを思つてゐる、早くいゝ國になることを希望し祈つてゐる、何故ならばこの東洋の平和を保つには今の日滿親善は非常に必要である、ところが日滿兩國だけをもつて東洋平和を維持するといふことはむづかしい、困難である、どうしても支那も一緒になつて、さうして同じやうに親善を計つて、同じく共存共榮の意味の下において一致の行動を取らなければならぬ、かういふやうな意味で日滿支三國が一緒に共存共榮の意味の下

に協同的に仕事をしてはじめて東洋の平和を保つことが出来る。

日滿兩國だけで共存共榮とか何とかいつても、それは出来るけれども、日滿兩國の親善に過ぎないので、支那本部の關係を除外してやると、即ちその目的を達することはなかく出来ぬ、又絶対不可能である、だからして吾々はいつても早くこの支那本部を吾々滿洲國のやうに日支親善共存共榮でゆくやう指導しなければならぬと思つてをります。

現在吾々が支那から断絶して獨立國をこしらへたばかりだからして、まだ南京政府も聯盟のとやら、今度私の方に獨立をやられたことやらに對して非常に憤慨してゐる最中だから今のところは何とも仕様がな、今のところは「オイお前、吾々と同じやうにやらうぢやないか、共同でやらうぢやないか」といくらいつても怒つてゐるからだめだが或る時機が來たら向ふの昂奮性も少しは鎮んで來るだらうと思ふ、又少しはよくわかつて來ると思ふ、そのときに出來得る限りの手段を盡してこれを引張りだして共存共榮の見解の下において日滿とも一緒にやることを覺悟してをります。

私の方はかういふ風に思つてゐるし、この建國既に半年余になりまして彼等の持つてゐる昂奮性はだん／＼冷めて來た。ところでその冷めて來るやうなときになつて今度聯盟が又例の報告書

を發表した。それを讀んで見ると價値のあるものではないが、現在の南京政府はもちろん、あれを頼んで來たのだから精神が昂奮して來る、如何にも聯盟が吾々を助けてゐるやうに思ふので、さう思ふほど間違ひが出來て來る。それによつて又間違ふやうなことになつて來る。だから私のあれに對する批評は國際間において悪いことは言へないが、リットン卿の書いた報告はたゞ支那人を誤るだけの一つのステイメントになると思つてをります。國際間において好適かどうか疑問と思つてをります。

かういふやうに一般支那を益紛糾せしめる。さうすると従つて我日滿兩國家にも關係を及ぼして來る、だからして私はあの報告書に對しては非常に遺憾としてをります。けれども外國人のことだからして向ふもさういふ風に言ふて見たいことは言ふて見たいでせう。それで私は東洋民族の決心を示してやらなければならぬと思つてをります。昨日(十月二十一日)松岡全權が日本からジュネーヴへ派遣されて行きましたが、——わが滿洲國からも或る人が行つておりますが、私は松岡全權に會つて話が出來なかつたのが残念でしたから、今朝電報を打ちました、その電報を御紹介いたします。

御出發前篇とお話得たりしを遺憾とす、吾々は何者といへども應々諸々の希望に燃ゆる滿洲國に對し指一

本さすこと許さず滿洲國の理想は民族平和四海同胞博愛仁慈なり、民衆を重んずるの悪政より解放して安堵樂土
たらしめんとする絶對的平和境の實現なり。その他のあらゆる行動は大アジア主義に對する不當の干渉なり
と認む

この電報は私が滿洲國を代表してをる外交總長謝介石として日本の代表松岡氏に打ちました、
それは吾々の決心を示して松岡氏に聯盟で大いにやつてもらふためであります。滿洲國の外交は
今お話したやうに思ふやうに行つてをりますが、千變萬化の外交のことだから、どういふ風にな
るかわからぬ、この際吾々兩國國民は宜しく誠心誠意をもつて相提携してこの外交に對せんことを
私は希望いたしてをります。

財政問題

次に滿洲國の財政の狀態を少しお話いたします。滿洲國の財政はどうかといふと、滿洲國が出
來ましたけれども、もし金がなかつたならば何もやつて行かれませぬ。折角出來た滿洲國が金が
なくてとは皆様も非常に心配されるでせう。それで私は滿洲國には金があるといふことをお話し
て皆様が安心が出来るやうに御紹介いたします。皆様の中には滿洲國においてなさいましたお方が

あるだらうと思ひます。もしも滿洲國においてなさいましたお方があるならば私の説明はよくわか
りますが、それでなければ一寸困ることがある。

何故ならば滿洲國の幣制は非常に複雑であります。第一奉天からいへば奉天票といふものがあ
る、本票といふ紙幣がある、一圓、五圓、十圓、百圓と奉天が發行した紙幣で、この本票は現在
の日本金の一圓に對して本票三百圓位に當る。それからこの本票以外に私でもわからぬやうなの
があります。それから吉林においては官帖といふのがある。それが同じく紙幣で、いろいろの樂
書のやうなものが書いてある。それが一帖から三帖、五帖、十帖、五十帖、百帖といふやうにな
つてをります。これは一圓に對して何千帖といふ大變なものであります。黒龍江には黒龍票とい
ふものがあります。ハルビンにもまた紙幣があります。これ等は大きなところであるが、この外
小さなところはいくらもありません。かういふやうな混雜の狀態で、財政の整理は非常にむづかし
い。けれどもこの財政をもしも整理しなかつたならば滿洲國は倒れて破産してしまひます。だか
ら大決心をもつてあらゆる紙幣を一度に回收する。そして中央銀行をこしらへて總ての金融機關
の主體たらしめることで、建國のときから今まで非常に苦心して中央銀行はこの二ヶ月前に店を
はじめることになりました。

かういふやうな混亂の財政状態を統一するのはなかく容易なことではない。今の紙幣の何萬萬帖といふやうなことは勘定だけでもやゝこしい、なかくむづかしい財政状態であつた。ところが中央銀行が出来てから非常に順調に行きまして、かういふやうな紙幣は中央銀行の手によつて回収する許りでなくして、人民の方がいらぬといふやうになつて来た。何故ならば中央銀行の紙幣は信用が出来、昔の面倒な紙幣はいらなくなり、中央銀行の紙幣は非常に価値が上つて来てゐる。この現在の滿洲國の中央銀行の紙幣の価値をもつて滿洲國の政治を推して數字的に書けば滿洲國は非常に有望なもので、又非常に大金持であります。この現在の滿洲國の中央銀行の發行してゐる紙幣は一圓と十圓とがあるが、これは現銀に取換へるのです。現銀といふから銀と取換へる。現在支那で一般に使つてゐる銀貨は袁世凱の頭とか、孫文の頭とか描いてある銀貨がある。同じ百圓を交換するに滿洲紙幣をもつてその銀と交換するには、普通當り前からいふならば滿洲の中央銀行の紙幣はどうしても現物に比して下落せねばならぬ、ところが百圓に對して二圓五十錢増す。現物の銀と交換するに二圓五十錢余計価値がある、この勢ひで滿洲國がやつて行くならば滿洲國の財政は非常なものであります。それは皆様決して心配するには及びませぬ。現在滿洲國は治安のことについては日本國にお願ひして軍隊をもつて治安を維持してもらつてゐる

が、外の點には皆様に無心いたしませぬ。それならばどうして滿洲國の發行してゐる紙幣がそんなに価値があるかといふと、元來この東三省で發行してゐる奉天票とか官帖とか黑龍江の何何とかいふものは資本金がなく、無資本でたゞ發行してゐる。例へば一千萬圓の紙幣を發行する。銀行の規則によればその何割とか、幾らとかいふ資本金がなければならぬ。その紙幣を發行するに對して準備金があればならぬ、ところが東三省政府は準備金はなく勝手に發行する。どうして發行するかといふと、御承知の通り滿洲には特産物といふものがある、大豆です。

この滿洲國の特産物は現に二億から三億までの金高を輸出してゐる。大豆だけで外國から三億圓位の金をもらふ。さうすると、舊軍閥の政府はこの特産物の出るときに、その金を人民から略奪しやうと思つて買占めてやる。この三億圓位の値段のある大豆をその一手で買占める。さうすると政府が皆買つてしまへば人民は商賣は出来ない。權利をもつて政府が買つて儲ける。それで東北政府に向つて人民の方から買つてもらふ。人民の物を買つて正當に儲けるのならいゝが、さうぢやなく非常にひどい惡辣手段をもつてゐる。それはこの多くの特産物を買はうと思つても東北政府に金がないから買へない、さうするとどうするかといふと、今の紙幣を發行する。この特産物の出来るときに一千万圓、二千万圓とどしどし發行する、資本はいらない。幾らでも紙幣を

發行してそれをもつて人民から大豆を買占めるのです。

それがために現在の滿洲國に在る日本の特産商は實に閉口してゐる。それがために商賣は出来ない。何故出来ないかといふと、例へば今日の相場が一石の大豆が假に十圓であるとする。さうすると十圓で買へばいゝ。ところが軍閥の奴は十圓の價値のある大豆を十三圓でも十四圓でも紙幣を出して買ふ。元來この紙幣は價値がないものだから——さうするとこつちは普通の値段以上に買つてゐるから他のものは買へない。たゞ見てゐる。專賣になつてはゐないけれど、たゞ見てゐるより外はない。それで澤山値段を出して買つた。そこで今度は賣るんだ。たゞ買つて來たばかりでは仕様がな、賣つてからはじめて金になるのだから今度は賣る。この時に今日の値段を十五圓と假定する。さうすると自分が當初買つたときに十三圓ならば賣るときには十五圓でなければ引合はない。それを今十五圓の値段があるときに十圓で賣つてもいゝとか、或は八圓で賣つてもいゝとかいふ風に、いくら損してもどしどし賣つてしまふ。さうすると一方の商人は又賣れない。どうしてかうするかといふと、賣つたほど儲かる。元來この紙幣が價値のないものだ。これを一圓に賣つても一圓儲かつて來る。現金で返つて來る。紙幣は造つたときから終ひまで反古と同じものだ。これを一圓の現金と取換へて來るのだから非常にいゝ法でせう。それがために現

金は外國から持つて來るが、持つて來て自分の懐中に入れるだけで、發行した紙幣は元來準備金がないのだから、それは大豆の商賣が濟んだ後ではすつと暴落する。だからして元發行するとき一圓のものが一圓に對して三百圓なければいけない、さういふ風になつて來る。それで非常に財政混亂してゐる。

今度滿洲國はかういふやうなことは中央銀行に對して絶對的にさせませぬ。今までは軍閥がやつてゐた奉天官銀號とか吉林官銀號とかいふものが、かういふことをやつてゐたが、今度滿洲國では絶對的にかういふことをさせない。だからしてかういふやうな動搖がない。御承知の通り滿洲國には財源がいくらもある。鑛山やら森林やら財源豊かであるからして、その財源を基礎とし、そして今までのやうな無茶な無資本の紙幣を發行しないから自然にこの紙幣は價値があるやうになつて來ます。これは滿洲國の財政の状態であります。

内政問題

今度は内政のことを少しお話いたします。内政は範圍が廣い。これを一々申すことはなか／＼むづかしいし又面白くもない。私は特に滿洲名物の馬賊のことを言ひます。これは内政の一部で

あるから滿洲の馬賊のことを皆様に御紹介いたします。皆様は新聞で見てよくわかりだらうと思ふ。又新聞によつてわが滿洲國に對して非常に心配されるだらうと思つてゐます。近來の新聞は毎日滿洲國には土匪が出て來た、馬賊が出て來た、そして人を引張つて行つたとか、或は汽車のレールをやられた、汽車が毀されたといふやうなことが、ほとんど毎日あるやうに載つてをります。これは實際事實であります。嘘も何もない。けれどもこれは驚くに足りませぬ。現在は寧ろ土匪があることがいゝと思ふ。

何故ならばこれは一定の經過、一定の自然的の經過である。土匪が澤山あることは自然的の經過になつてをります。それは滿洲國建設以前に日本軍が自衛の發動によつて悪軍閥を追拂つた。軍閥を追拂つたといふのは、軍閥が幾人あるかといふと、張學良とか張作相とか、かういふやうなもので幾人もない。その勢力を追拂つただけでその持つてゐる兵隊は滿洲國に残つてゐる。軍閥は追拂つたが兵隊は追拂へない。さうして滿洲の昔の東北軍閥が持つてゐた兵隊は三十萬位あります。ところが張學良が北京に行つたときに引張つて行つた兵隊は十二三萬位ある。残つてゐるのは十五六萬位滿洲國にある。さうすると軍閥は追拂つたが兵隊はまだをる。

その兵隊といふものは御承知の通り日本の軍隊とは違ひます。支那の兵隊は實際兵隊とはいへませぬ、一種の武装した苦力に過ぎない。其武装の苦力は兵隊でなくて兵隊の境遇によつて養つてゐる軍閥を追拂はれてしまつた、自分の養つてもらふところがなくなつてしまつた。大隊長もない、聯隊長もない、師團長もない。さうするとどうしていゝか。家もない、又妻もない、子供もない、兄弟もない。さうするとどうなつて行くか。土匪——これより外仕様がなない。幸ひ武器を持つてゐる、鐵砲を持つてゐる。さうすると土匪になるより外はないといふわけで全部の兵隊は土匪になつてしまつた。そして方々を荒す。日本軍がやつて來ると逃げてしまふ。仕様がなない。さういふ状態であります。

馬占山の討伐、丁超、李杜等反滿洲國の軍隊の討伐で片付きました。けれども大將だけやつたが後の兵隊は皆殺したのではない。それが土匪になる。ところが彼等が土匪になるのは一時は非常に悪いが、それが却つていゝ。いゝといふのは土匪にならなければそれだけの反抗者がある。これが土匪になれば差別が證明が出来る。東三省に十萬の兵隊があれば十萬の土匪、十萬の馬賊が増してゐるわけでありませぬ。その土匪がこの頃は著るしく出て來るのは、初め逃げたばかりのときには幾らか貯へがある、それでやつて行けます。ところがだん／＼貯へもなくなつてしまふ。追々寒くなつて來る。そして現在滿洲國には高粱が出てゐる。昔から高粱が出るときには必

馬賊が多くなるときになつてゐる、これが例になつてゐる。

高粱が高くなると土匪が澤山出るので、この時期において特に警戒する、警察も臨時徴集をやらなければならぬ、昔からさうなつてゐる。だから今年の三月吾々が滿洲國を建てた當時は、まだ彼等に貯へが幾らかある、それが近來はなくなつた、そして寒くなつた。高粱が高くなつて來て一種の堡壘が出来る。このときに活動しなければ活動の余地がない。寒くなつて來れば死んでしまふ。だから馬賊は自分の生存條件、即ち必要の條件でどうしてもやらなければならぬ。だから四方八方やつて來る。昔から一個小隊とか、一個大隊とか纏つて來るならば、やつつけるに都合がよいが、それが散らばつて二十名、三十名になつて來るから實際困る。だから新聞ではいつでもあるといふが實際そんなに澤山ありはしない。だからして現在の土匪、馬賊はどうしても今のうちにやつて來なければならぬ。今のうちにやらなければ冬になつて來ると凍えて死んでしまふ。食ふものがなくなつてしまふ。

もう一つは近來は非常に鐵道の線路を填して汽車を襲ふて持つて行く。昔は方々にやはり防備の兵隊がいくらもをりまして、こゝに百名あすこは五十名といふやうに置いてある。ところが土匪や馬賊は支那の兵隊のあるところでは活動が出来る。それが現在では彼等の活動は出来ない。

何故出来ないかといふと、日本の兵隊が方々にゐる。日本の兵を十名置くと支那の兵百名よりも強い。それは力が強い許りではない、融通が利かないから強い。支那の兵隊百名ゐても馬賊が直接兵隊にかゝつて來なければ知らぬ顔をしてゐる、又場合によつては幾らか均霑してもらふ。ところが日本の兵はさういふわけにはゆかない。融通が利かない。馬賊でも生命が惜しい、だからさういふところへは行かない、冒險的に市街地を襲ふより、日本の兵隊の防備の足らぬところを見て鐵道などを襲ふて來る。だから今日馬賊が澤山になつてゐるといふのは、實際今説明のやうに自然的でどうも出来ない、仕方がない。

滿洲國がその兵隊を懐柔してしまふ。即ち兵隊を金をもつて買收して良民にする。然し東三省の兵隊は性質が悪い。東三省の人民は兵隊であるか馬賊であるかわからぬ。不可分であります。今日は人民であつても今夜は馬賊になります。又今夜馬賊も明日は人民になる。さういふやうなことをやつてゐる。又一般の人民も馬賊に對して別に厭と思つてをりませぬ。これが東三省の人の氣分です。例へば今夜吾々がかういふ風に會合してゐる。散會する。何處かへ行かうぢやないか「行かう〜」といふので、すぐ馬賊になつてしまふ。かういふ風です。吾々が素見に行くか、見物に行くといふ氣持、さういふやうな性質だから本當に仕方がない。又馬賊をやつて村へ

歸つて来る、村中の者が皆知つてゐるが咎めない。たゞあいつ昨夜どこそでいゝことをして来たといふやうに羨ましいやうにいふ。もう一つはもしも何も取つて来なかつたならば輕蔑する、あいつ低能だから何も取れなかつたのだと、中には馬賊を獎勵してゐるやうにいふのがある。かういふやうにして馬賊が出来上る。それでこの兵隊を滿洲國が買収し懐柔するといふことは決して不可能ではないが、現在はまだやむを得ず一時の自然的の経過を待つてゐるより仕方がない。交通事業も早くやり一方鐵山その他産業が發達するとともに馬賊のパンの問題が解決する、そうなれば馬賊もだん／＼なくなつて来る。かういふ有様であります。

今日はまだもう少しお話ししたいがもう時間がありませぬから、これでやめます。

——速記による——

滿洲問題の認識

本社副社長 下村 宏

大體滿洲問題については、今更私如きが彼是申上げずとも諸君は御案内のこととせう。たゞ本日私の申上げたのはこの認識といふ問題であります。で滿洲問題以後認識不足——認識といふ言葉が流行言葉になりました、お互の間でも、あいつは認識不足だといふので、かなりこの言葉が流行語になつてをります。それではこの滿洲問題についての聯盟の各國が認識不足なのか、又吾々が認識が十分過ぎてゐるのか、一體認識の真相如何、更に進んで如何にすればこの問題の眞の認識があるのかといふことで私の話を終りたいと思ひます。

各國間の紛争

過去一世紀間の戦ひでは約四百五十万人位の戦死者があつたといふが、歐洲大戰が初まつて

エルサイユ條約が締結されるまでの四年間に一千萬人以上の戦死者があつたのでありますから、世界を擧げて傷ついた。この戦ひの後は各國ともに腹は立つても足が立たぬ。それで皆立たずにをつたのかといへば、所謂戦ひといふ形が一國の中で内亂として、又は國と國との間の戦ひとして、まるでないでは済んでをらなつたのであります。今日でも現に國と國と戦つてゐるところがある。もし諸君が皆、それなら何處の國が現に戦つてをるかといふことをよく御承知になつてをれば認識されてをるのであります。

ヅエルサイユ會議以後イタリーの如きはコルフ事件で現に兵隊をバルカンへ出し、又イギリスも支那におけるポイコットが原因となつて英國から上海に軍隊を出したのであります。更に近くはロシアと支那の間で東支鐵道問題を中心にして戦ひを交へたのであります。その他内亂としては、中華民國はこれは年中行事でありますから、過去約二十年間民國となつてから今日までほとんど寧日なく内亂は續いてをります。

然し更に現に國と國と戦つてをるところがあります。南アメリカでアルゼンチンとウルグアイが國交が斷絶してをります。ウルグアイは御承知の吾々學校で地理で學びましたが、丁度日本から地球の中を突き通しだ反對の側がウルグアイでありますが、このウルグアイとアルゼンチンが

現に國交斷絶であります。然し戦ひはしてをりませぬ。今戦つてゐるのはパラグアイとポリビアであります。大體ブラジルは元ポルトガルの植民地である。その他南米各國はスペインの植民地であつた。スペインの國王領になつてをつたのが、相次いでスペインに對してその獨立を宣した、そこで北はコロンビアから南はアルゼンチンの端まで幾多の國が出来上つた。

真中に御承知のアルゼンチンとパラグアイとブラジルとチリーに圍まれて、そこにポリビアといふ國がある。又ウルグアイとブラジルとポリビア、アルゼンチンに境してパラグアイといふ國があります。ポリビアは御承知の如く奥になつてゐる。それがチリーとペルーの間から手を伸ばしてポリビアの領土が太平洋岸にまで出てをつた。それが嘗てチリーと戦つてその領土をチリーに取られて太平洋の方の出口がふさがつたのであります。それで今度はアルゼンチンのヴェノスアイレスに流れてゐる河に沿ふて大西洋の方に出口を求めたいといふのがポリビアの立場であります。

又パラグアイは嘗てブラジルとウルグアイとアルゼンチンの三國を敵として戦つたのであります。衆寡敵せずで、このパラグアイの領土は多少削られたのであります。今問題となつてゐるのは、このパラグアイとポリビアの境にブランチャコといふ地があります。約十萬平方マイルと

いふから大きなものであります。このプランチャコといふところが石油も豊富、牧畜にもよし、森林もある、まあ日本と支那の間の滿洲とでも申しませうか、これを昔からポリビアとパラグアイと双方からこの地點を互により多く占領すべく戦ひがほとんど一世紀以上續いてゐるのであります。それで本年の一月になつて又ポリビアの軍隊がそのチャコの一部のパラグアイの要塞を攻めたのが起りで、こゝに又兩國の間に戦ひが始まつたのであります。

これに對しては國際聯盟の理事會はもとより、御承知のアメリカでは、北アメリカと南アメリカを通じて二十一ヶ國、その中からパラグアイとポリビアを除いた残りの十九ヶ國は汎アメリカ——アメリカ全體の會議といふものがありますが、その會議で、その當事國である二國を除いた十九ヶ國の會議で、その戦ひをやめろといふ勸告をいたしました。然しながらこれはポリビアの方から攻めたんでありますから、その攻めた元の狀態へ戻るといふことには、パラグアイは同意してゐるが、ポリビアは背かないのであります。で、かくの如くして一時少し小止みになりましたが、この九月になつてから又戦ひが始まり、近く知る限りでは更に國際聯盟、又今度北米合衆國とペルー、チリー、ブラジル、アルゼンチンと、これ等の國が盛んにこの戦争の停止といふことを申入れてをりますが、その要求が肯かれずにこの兩國がやはり交戦状態にあります。

交通が不便であり土地が隔たつてをれば、わが日本の狭いさう、えのやうな國で、昔は東北で南部と津輕が戦つても、伊達と蘆名が戦つても、武田と上杉が戦つても、それは九州では没交渉であります。九州は九州で島津と龍造寺と大友とは又勝手に戦つてをつたのであります。それが今日は世界の或る一角に戦ひがあつてもそれは世界全體の經濟に政治に、物質にも思想にも影響せずにおかぬのであります。然し今南米でパラグアイとポリビアが戦つてをつても、それは吾々には交渉は極めて薄いのであります。従つて吾々がこの南米の一角に現に國と國と戦つてをるといつて見ても、そんな國はあつたかな、戦ひをやつてるのか、といふ位で別に痛くも痒くもないのであります。

それで或は諸君の中にはどうせ戦争といつても鐵砲の音はするんだらうが、大したことであるまい、中華民國あたりでの戦争の類ではないかといふやうな疑念もあるかも知れませぬが、これは今の戦ひといふわけではありませぬが、私がこのパラグアイとポリビアの戦ひについてその記録から抜き出した數字によりますと、先程申したパラグアイが、あの國の大きなブラジルとアルゼンチンとそれからウルグアイの三ヶ國を相手に、一八七〇年頃から約十四五年の間戦つた、そのときにです、パラグアイの人口は百三十三萬人、大東京のまあ三分の一といひますか四

分の一と申しますか、数は少いのでありますが、この百三十三万人のパラグアイの國民は五年間の戦ひに百萬人余死んでをります。それで生き残つたのが何ぼかといふと、五ヶ年の後に戦ひが済んで見ると二十二萬千七十九人になつた。

百三十三萬七千四百二十九人の中から生き残つたものが漸く二十二萬千七十九人、しかもその中で婦人は僅に二萬八千七百四十六人で、記録では婦人も皆戦ひに出た。それから軍は十二歳以上は皆徴兵された。即ち國を擧げて戦つたのであります。従つて今日でもパラグアイの人口は八十五萬人、丁度日本の一年分の増加人口位の數が今日の状態であります。過去のこの激しい戦ひのために今日に至つてもまだ人口が回復しない、百三十三萬がたゞの二十二萬まで減つたのが現在八十五萬人になつてゐる。これは私は今度はじめて知つた事實であります、随分この祖國の角パラグアイの國民は戦つてをるのであります。

従つてこのプランチャコといふ土地を中心にしてのポリビアとパラグアイのこの紛争、この戦ひといふものは、いつまで續くのか、又これが南米の平和といふものを如何に攪亂して行くか、これは南米として極めて大きな問題であり、南米の各國は極めてこれに對して深い認識を持つて

をるのであります。然し吾々東洋のものからは、交通は艱難でない、經濟關係もそれ程密接でない、戦ひがあるといふことすらも恐らくは多數の諸君は御承知ないと思ふのであります。

これと同じ様に滿洲で或る事變が起つたといふときに、この滿洲の問題に對して歐米人が認識不足であるといふことに決して不思議はないのであります。無論ポリビアとパラグアイのことを思へば、日本と中華民國の間であり、事態は大きいのでありますから、同率には論じ難いかも知れませぬが、然し吾々は、フランスとドイツが戦はんとし、又イタリーとバルカンの間とに火蓋が切られんとしても、極東の吾々に對してはほとんど没交渉であります。従つて今日歐米各國が滿洲問題について認識が不足であるといふことは責めにくいのであります。然しながら吾々が認識が不足であつたら濟まない。

滿洲に對する認識

それならば吾々は一體滿洲を認識したのか？ 少くとも昨年の九月十八日以後は朝野専ら滿洲を認識してをります。認識は百パーセント、認識二百パーセント、近頃は雜誌でも新聞でも滿洲である。一も滿洲二も滿洲である。もしこの認識の十分の一、百分の一、千分の一でも日露戦役

以後に認識してゐたならばかういふ事態にはならなかつたのであります。

三〇

日露戦役で数億の金を費し數十萬の生靈を失ひ、その當座はかなり滿洲に對する一般の認識もありませんが、どうもその後の認識といふものは非常に貧弱なものである。寧ろ認識どころぢやない、その方面に在る人達すらも日本の國是と申しますか、日本の民族としての自覺と申しますか、その間の輕重緩急は誤られてをつたと思ひます。あの廣い大きな滿洲に南滿鐵道一本敷いてあるだけで、他にはまるで敷かせぬといつた。それで済むものでありますか。もしこゝに吉會線とか、その他幾多の線がある、これも敷き得る、敷き得るけれどもそれを敷くと本線が寂れるといふやうなことで敷かなかつた。それを今日は是非やらうといつて夜を日に以てやつてゐる。政黨でも或る時代にはまことに小さな眼でさういふことをやつてはいかぬといふ風である。かういふ事實が滿洲にあつたのであります。或は朝鮮でも、さういふ線が出来ると義州から釜山に亘る朝鮮の客が減るといふやうな、さもししい考へを言ふ人も一部にはあつたのであります。大體諸君には釋迦に説法でありますが、イギリスの民族が、今日世界にイギリスの國旗の飄らないところがない、イギリスの領地に日没の時がないといふ。世界各地にイギリスの自治領とか或は屬國がありますが、それ等は皆日本でいへば日清戦役とか日露戦役とか、さういふ多大の

犠牲を拂つて正面から向ふ鉢巻で戦つて取つたものかどうか。カナダはどうか、アフリカの各地はどうか、インドでも、海峽植民地でも、濠洲でも皆どうであつたか。南阿の如きは一時はオランダと戦つたこともありましたが、南阿の如きも一介の學生のセシルが少し肺の病氣で、兄貴がケープタウンの方にゐるからといふので出掛けて行つて、それが尻を据えてこれ等の兄弟がでか上げたのがあのローデシアの國であります。

大體南洋方面でもインドでも、いろんな會社があつて、その會社で多數の人が仕事をし、その間に土人と交はりが出来るといふ風で、民衆が先に立つて國旗が後に従つて行くのであります。それが日本のは國旗が先に立つて戦つて、正面から非常な犠牲を拂つて取つて、しかも後から民衆が續かないのであります。されば日清戦役後台灣が日本の領土になつた。そこで本島人は非常な勢ひで増加する、といふのは昔はベストが盛んであり、マラリアが盛んだつた。それに氣候が悪いので死亡率がすこぶる高かつた。それが衛生施設が整ふ、醫術が普及する、交通が延びて来る等で本島人の人口の増加率は非常に高くなつた。内地人はどうかといふと初めも今も大して變らない。少しは殖えてをるけれども今日尙二十何萬とかいふことで三十萬には足りませぬ。朝鮮だつて同じことであります。朝鮮は日本に合併されてから、どれだけ朝鮮の文教が發達し

たか、どれだけ産業が振興したか、これは實に著るしいものである、然るに内地人はどうかといふと、先づ總督府その他のお役人だが、これは命ぜられれば皆内地へ引揚げてしまふ。他はもう皆出稼人であります。

滿洲も滿鐵がなかつたら全滅でせう。滿鐵があるので、こゝに僅に二十萬位しかをらぬけれども、その滿鐵の仕事をやつてゐることゝ、そこに關東州に兵隊がつて秩序を保つてゐる。例へば郭松齡が張作霖を攻めても、關東州の日本の軍隊が一睨みすると山海關から入つて來ない。かくの如くして平和が保たれてゐるにもかゝらず、日本からは未だに二十萬か二十三萬しか行つてをらぬ。それが山東からは毎年何十萬、時には百萬以上の移住民が入つて來る。なればこそ日露戰役當時六七百萬しかなかつた滿洲が今日三千五六百萬人と號するのであります。

我國では内地のこの狭いところで、石油もほとんどない、石炭も今になくなる、鐵もない、綿布の原料の棉花もない、天恵に乏しいことにおいては各國に誇るに足る。たゞ先づ富んでゐるのは地震に歐風で、平地は國の面積の二割しかない。人間の住み得る面積の密度からいへば、世界で最も密度の高いベルギーやオランダより倍以上も人口が滿ちてゐる。この富の薄い富源に恵まれざる我國に兎に角毎年八十萬づゝ人口が殖えて行く。さうして失業問題だとか就職難だとかい

つてゐる。

それで或る政黨はこの問題は現内閣のやり方がいかぬのだといひ、或は又他の政黨は前の内閣がいかぬといふ。が一體この問題がどう解決されるか。吾々は複雑な細かい問題は知らないが、兎に角限りある場所へ、しかも天恵に富んでない場所へ毎年八十萬人づゝ増加する。これが算で殖えて行くと消化しきれない。何とかしなければ蒸れる、いきれるといふことを考へなければならぬ。日本人はお互にいきれぬ。苦しいといふことを言つてゐるが、これをどうしたらいかといふことは考へてをらぬ。歐米の學者は皆これを考へてくれる。どうも世界の禍根は日本にある。この極東の一角に無暗に人口が殖えて行くのを何とか調節しなければこゝに禍根が生ずる、これが延いて世界の平和を害すると心配してゐる。

今日までヨーロッパではバルカンが噴火口だといつてをつた。今日ドイツとフランスは相拮抗してゐる。イタリイが又ムツソリニはヴェルサイユ會議で得るところ極めて少く、しかも毎年二十萬、或は四十萬とアメリカ合衆國へ移民を出してをつた。その口がふさがれた。イタリイの人口問題はまるで釜で湯をたきつて拂騰してをる。沸騰してゐるこの蒸氣は溢れなければ破裂する。それでも子供を産め〜といつてゐる。といふのは今のイタリイの四千萬の人口ではフラン

スやドイツより足りない。苦しいけれども殖やす。これがイタリーの國是であります。

要するに人口問題が根底であつて、今日日本の人口が反對に減つてくれば、滿洲問題とか何だとかいつて他所の畑へ鋤をかけるだけの必要がなくなるかも知れない。又この民族が極めて弱い民族なら指をくはへて泣き寝入りで引下つてゐるより仕方がない。

それで今日私どもの問題はどうか。この認識といふのは一體ばういふ認識をしてゐるかといふことを確かめたいこと、それから、假にさういふ認識がよいとしたならば、その認識を何處までも續けてほしいといふ、この二點に歸着するのであります。

私は過去の日本の歴史を見て、滿洲どころか、台灣、朝鮮すらも認識不足だつたと思ふのであります。内地では普選になつた、今度は婦人も参政権をやらうといふ時に、同じく陛下の赤子であり、齊しく憲法治下の民である朝鮮、台灣はどうなつてゐるか。昨今新聞を見ると愈台灣と内地とが合法的に結婚が出来るといふ。これは後藤さんの時代から吾々の時代でも歴代努力するがわからぬ。戸籍法がどうかといふので未だにこの間に結婚して出来た子は私生子である。さうかといつて吾々の手により専門學校から高等學校、大學まで出来てゐる。それに参政権すらも

認めてない。又朝鮮人は内地にをれば朴春琴君の如き本所から衆議院議員に當選してゐる。兎に角こゝにほとんど三千萬に近いこの多くの民衆が日本國民といつてをるのだが、これに對する認識すら乏しい。

語學に對する認識不足

私は尙いろんなことを申し上げたいのでありますが、本日はたゞ一點だけ私は諸君に訴へたいと思ひます。それは何かといふと言葉といふことであります。私は日本の教育の方針が誤つてゐると思ひます。兎に角ヨーロッパなら、ヨーロッパでは自分達の國の言葉は無論やりますが、同時に自分達の國と最も利害の多い國の言葉をまた學ぶのであります。日本では今日中學でも高等女學校でも、何處へ行つても英語のために一週五時間或は六時間もかゝつてゐる。それが學校を出て、絶えず西洋人と話したり、手紙を書いたり、いろ／＼しやべつたり聴いたりしてゐるかといへば、さうぢやない。有難いことにはその位骨折つて勉強して、さて電車の中などで西洋人が道でもわからぬと尋ねてをつても、そこへ行つて親切に案内することが出来ぬ程度にはなつてをる。出来ないことはないけれども、うっかり口を利きに出て日本人のこつたから誰でも片言は知

つてゐる、自分が差出て行くのは如何にも俺が出来るといふので如何にも高慢らしく見えはせぬかとか、又その心配よりは下手にやつて聴取れなくてまごつくこと笑はれると懸念する。かくの如くいろく懸念があるから、折角學んだ言葉といふものは一生のうちに何度使ふか、ほとんど使ふか使へぬかわからぬ。無論この言葉を知つてゐるために、まさか葡萄酒とブランデーとは間違へぬかも知れない。それを知つてゐるおかげで散髪屋にパーパーシヨップと書いてあるのがわかる。然しそれは知らなくともちやんと理髪店と書いてある。内地ばかりぢやない、朝鮮、台湾へ行つても同じことあります。

朝鮮でも台湾でも、朝鮮語、台湾語を學ばしてをらぬ上に、お前達日本よりもえらい國がある、それをイギリスといふ、その國の言葉、この英語を學びなさいといつて、滿洲へ行つても、大連へ行つても、旅順へ行つても、これ等の中學では英語を教へてゐる。偶縁あつて吾々の息子が關東州へ行つてゐると、その子孫はその土地の言葉に包容しさうなものだが、この朝夕接觸する支那語は使はずに英語は學校でやつてゐる。それに父兄からさうである、そこを出て來ぬと内地の學校を受けて入ることが出来ない。内地では英語をやらなければならぬ、役に立たぬのは萬々承知だ、けれども上の學校へ入るには英語を受けなければならぬといふので、わざく朝か

ら晩まで多數の支那人と顔を合せ、寧ろ片言でも何でも相當覺えたならば品物を買ふんでも、朝夕人を使ふんでも都合がいゝのに、それを學ばずに、日本よりはまだえらい國があるといつて英語を學んでゐる。

今日外務省へおいでになつても、外務省へは外交官試験を受けて入る。公使とか大使とかいふ人は英語やフランス語が出来る。無論さういふ人がなければならぬ。松岡洋右君が我國を代表してジュネーヴへ出かける。松岡君は非常に力もあり知識もあるが、英語に熟達してゐることが何よりの武器だ。その位熟達してゐる人ならば多數あつた方がいゝ、何百人何千人あつてもいゝ。然し熟達せぬ程度に多數あるだけでは困る。ワシントン會議のときなど、加藤友三郎全權の通譯は誰がしたか。外交官試験を受けた人が何十人となく行つてゐる。そうして極東問題でも太平洋問題でも、その問題に對して豫備知識を持つてゐる人が通譯しなければならぬのに、あのときはスタンフォード大學の市橋君が通譯した。その位熟達した人は少いのであります。

近頃は年中萬國會議ある。熟達した人が必要だ。これに大分出かける、これには非常に競争がなければならぬ。今日區會議員や市會議員選舉、衆議院議員選舉といふときには候補者が多すぎ、皆多くの金を使つて競争してゐる。中には法を踏みくだいても尙選舉を争つてゐる。國を代

表する萬國會議などは何十萬と金を使つて競争するかといふと、皆引下つて謙讓の徳を守つてゐる。その位言葉の出来る人がないのであります。熟達した人は欲しいが、帯にも短い褌にも短い。それがために少からず吾々の限りある壽命が短くなる。教育費も余計かゝる。

その位中途半端のものを學ぶ位ならば私は支那語を學べといひたい。外務省でも何處でも支那語が出来るといへば、まさか支那語が出来るといつて蔑まれる理由にはならぬかも知れぬが、何だか如何にも英語とかフランス語といふとえらさうにいふが、支那語といふと安つぽくいふ。吾等と同種同文とか隣國とか、又東洋平和とか、吾々黄色民族とかいふが、實際支那は隣の人だ。この言葉位は出来なければならぬ。その言葉が出来ぬから、諸君は張作霖とか蔣介石とかいつて、それでわかつてゐるつもりだが、然し張作霖とか蔣介石といふのは支那にはない。支那にはチヤンツオリン、チヤンカイシイといふのはある。あらゆる歐米人はさういつてゐる、本人がいふからいふんだと。それを日本では日本讀みをしてゐる。それなら皆日本讀みをしてゐるかといふと上海はジャンハイと讀んでジョウカイとは讀まない。こんなときは先方の言葉で讀んでゐる。元々外國人が支那語を學ぶより吾々が學ぶ方が樂だ。それで今私は各政府の當局の方々とか、その方面の人に希望してゐることは、内地で教育の上にもつと支那語を奨励してくれ、それから

又滿洲における學校では無論のこと支那語を第一外國語にして教へなければならぬ。更に滿洲へ今度は随分内地から多數出掛けてゐるが、これ等の人は何よりも先づ言葉を知り合はなければ互に意味は通じない。一々通譯を入れてをたつたのでは仕事は出来ない。又兵隊も今偶縁あつて滿洲の地に屯してゐるときに、片言でも何でも支那語を稽古する。相當話せるやうになれば外へ出て品物を買ふんでも都合がいゝ。言葉がわかつてくれば、同じ人間だから氣持も通ずるし除隊になつた後でも言葉でもわかれば、つい残つて見やうといふ氣持にもなる。

一朝事あつても、さあ徵發に行く、斥候に行くといふとき一々通譯を入れては仕事は出来ない。言葉が第一だ。言葉によつて眞に親善あるんで、今日支親善といふことを盛んにいつてをたつても、その實が擧げ得るのに擧がらぬ原因は言葉にある。蓋し中途半端でもいゝから、この英語の生かぢり程度でもいゝ支那語を學ぶ必要がある。支那の相當な人は皆日本語を片言でも話してゐる。それで意思はかなり通ずるのであります。

聯盟總會と世界の大勢

この滿洲の問題についてはこの四五日前に、私ども國際聯盟の理事會で松岡代表と約五時間ば

かり席を共にして話合つたのでありますが、松岡君は今までの外交といふものは、或る一案から二案、三案がある、それを懐中に行つて、先づ甲の案を出す、それがだめなら乙の案を出すといふ掛引をやつたが、今回は無外交だ。何でも進むより外はない。同時に又真向に進んで行かなければならぬのだから、どうしても自分達は聯盟脱退とか、そこを引揚げるといふやうなことはなく何處までも弁明これ努めて納得さすまで極力を盡す外はない。その自分達の強い信念を通すには、どうか日本の朝野ともに吾々のこの氣持をバックしてくれなければならぬと言はれた。

ところでジュネーヴの會議がどうなるか。それには又今日の世界の狀態がどう動くか、それに影響されます。御承知の通り十一月月上旬にドイツで總選舉があります。これでナチスが勝つてヒットラーが首相となるかどうか、これもヨーロッパの大きな問題であり、世界の大きな問題である。又アメリカでは民主黨と共和黨が大統領の候補の競争をしてゐる。フーヴァが勝つか、ルーズヴェルトが勝つか、これがアメリカの大きな問題であり、日本の大きな問題であり、世界の大きな問題である。それからドイツが國際聯盟へ軍備の均等といふことを要求してゐる。ドイツは條約によつて軍備を十萬と抑へられてゐる。これをせめて各國の最少限度のレベルまで上げると

いふドイツの軍備均等の要求、これがどうなるか。

更にこの前のロザンヌの會議でドイツの戦債を帳消にしやうといふことになつた。然しそれを貸してゐるイギリスやフランス等の國々は、各めい／＼に右ではドイツに貸してゐるが左ではアメリカから借りてゐる。それでアメリカへお前の借金が減るといふことを條件にして、それが減ればお前の方も消してやらうといふ、この條件付のロザンヌの會議の結果がアメリカのこの選舉が済んで後にどうアメリカがこの問題を解決するか。これが世界經濟會議その他の問題に引つかかつてどう動いて行くか。今日世界の問題は極めて多事であります。

その中へ極東の問題としてこの滿洲問題が入つてゐるのであります。その滿洲問題に對して、御承知の通り最初は十九ヶ國の委員會が開かれる。總會にかけるときには五十ヶ國で非常にがや／＼いふから、最初の問題は委員會であります。この委員會ではどういふ國が委員になつてゐるかといふと、かなり日本を認識せねばならぬ國柄もありますけれども——例へばスエーデンとかノルウェーとかポーランドなどは、日本とは貿易上の取引があり、公使館も互に置いてゐる。スペイン、ポルトガルなどはかなり利害が薄い。アイルランドなども薄い。南米のコロンビアとかパナマ、グアテマラ、かういふ國は恐らく何處にあるのかと探すといつては失敬だが、兎

に角中米から南米の一角にあるこれ等の國々がこの委員會の一員であります。吾々が今バラグアイとボリビアと現に戦つてゐるといふことすらも假に認識してをらぬとすれば、かういふ國々が滿洲問題にはやはり認識不足は當然だと思ふのであります。たゞ理論一點張り、或はたゞ小さい國が強い國に押されたときには、いつも小さい國は強い國にへつらふのは癪だ、誰しも弱い國を助けるといふ風がある。このコロンビア、パナマ、グアテマラなどいふ國も、どうかといへば余り日本の行爲をよいとは思はない。ただ松岡君でも、長岡君でも松平君でも、我國を代表してジュネーヴで奮闘する諸君のあるのは喜ばしいことゝしなければならぬ。

然しその問題よりも一番大切な問題は、形より實である。その實はどうかといへば、新たに出來た滿洲國を直に認識するや否やといふことであります。たゞ空虚な鉈屑を燃したやうな、さあ、たゞ向ふへ行つたら儲かるとか、向ふへ行つてうまいものを吸つて來やうといふやうな、暢氣な、いゝ氣な騙つた心でこの新たな國と手を結ぶのでは、ジュネーヴの方はよくつても正味が悪い。一番大切なことは直に滿洲國を理解し共存共榮の實を樹てるといふことが最も必要であつて、それが出來なければこの問題はほとんど無意義であります。

それで私はどうか急がば廻れといふので、右から左に今どうかうといふことは困難であるが、内地の教育の劃一制度であるとか、或は制肘とかいふものを相當考慮してこれを改正する必要がある。

日本の朝野がもう少し隣國に理解を持つて、少くとも支那語——この言葉になじむといふことをあらゆる方面から努めて行くことが必要である。私が台灣にをつた頃、絶へず台灣に在る外國の宣教師はもろろん、領事館の諸君でも、來てほとんど二ヶ月か三ヶ月で皆日本語を話すのみならず台灣語も話す。然るに肝腎の日本人内地人は、自分の領土だといふ台灣語すらも話せない。だから外國の宣教師は台灣へ來て台灣語でお説教をし、時々金をやる、病院もこしらへる、或は學校も造る。日本の坊さんはやつて來ても別に教育もしない、病院も建てない。その代り内地人が死んだときは葬ひでお布施をもらふ。僅行つてゐる内地人のお布施のみを目的にしてゐる。台灣語を稽古して台灣人の教化に努める外國宣教師とは非常な違ひである。それでキリスト教は外國の宣教師が住んでゐるが、日本の内地人の宣教師も台灣へ行つてゐる。それこそ台灣人にこのキリスト教の宣傳に努めてゐるかといふとこれも努めない。大體に言葉において日本人は不器用で、それは今いふやうに中學で一週に五時間も英語をやつても尙自由に話せないといふこと

で、年中吾々はその獎勵に忙しいのであります。兎に角この言葉をどこまでも内地でもやつて、その土地に行つたものは無論、これによつて眞に三千萬の滿洲人と六千萬の内地人との意思が疏通しなければ眞の認識はないと思ふ。

もう一つはどうも日本人は或る時は熱が無暗に上るが、時が経つといふとすうと下火になる。粘りが薄い、根氣が續かぬ。これはあらゆる場合に吾々親しく體驗せらるゝことであつて、此問題は過去において、初めに申上げた通り日露戦役の當時と、その後のことを考へたならばわかります。今日は滿洲問題といへば猫も杓子も大騒ぎだが、果してこの熱がいつまで續くか。この熱はいつまで四十度を超えなくてもいゝ、平熱でいゝからどうか續けたい。特に言葉によつて眞の握手をしたい。さうして今のやうにたゞ澤山兵隊が出かけて行つて、法律だ規則だといふことで重箱の隅をせゝるやうな窮屈なことをするところさくなる。うるさくしたんではいかに。所謂兄となつて又親となつて、自分よりも幼い者に對しては非常に寛容な態度をもつてしなければならぬ。この心持が事實において證せられて行けば、ジュネーヴの會議といふものは解決は樂である。又ジュネーヴが如何になるにしても、この實際がそのやうに傾いて行けば日本にとつて憂ふべきことはないと思ふ。

今日は新滿洲國の代表として謝介石總長が見えました機會に、私は諸君にどうか煎じつめたところお互にもつと言葉を習熟し、言葉が通すれば同じく人間であるから氣心もわかる。さうして融和して行くやうにして、この日滿提携の實を擧げたい。これをもつて私の講演を終ります。

——速記による——

滿洲國の真相を語る

昭和七年十一月五日印刷
昭和七年十一月十日發行

定價 十 錢

不 許
複 製

東京市麴町區有樂町二ノ三
株式會社朝日新聞社支店
東京朝日新聞發行所

編輯兼發行
兼印刷人 刀禰館正雄

發行所 東京丸の内
大阪中之島 朝日新聞社

朝日新聞社刊

終